



テンプレートを使用して、リソース作成を標準 化します

BlueXP remediation

NetApp
February 02, 2024

目次

テンプレートを使用して、リソース作成を標準化します	1
組織のアプリケーションテンプレートを作成します	1
テンプレートのコンプライアンスについては、リソースを確認してください.....	30
テンプレートを使用してリソースを作成または変更する	34

テンプレートを使用して、リソース作成を標準化します

組織のアプリケーションテンプレートを作成します

ネットアップが提供する「アクション」を 1 つ以上選択し、組織がリソース作成の最適化を開始するために使用できるアプリケーションテンプレートを迅速に構築します。

クイックスタート

これらの手順を実行すると、すぐに作業を開始できます。また、残りのセクションまでスクロールして詳細を確認することもできます。

1

必要な前提条件を確認する

- ユーザがテンプレートを使用して Cloud Volumes ONTAP、オンプレミス ONTAP、または Azure NetApp Files システム用のボリュームを作成する前に、ボリュームを導入する適切な作業環境にアクセスできることを確認してください。
- クラウドサービス「action」をテンプレートに追加する場合（など）["BlueXPのバックアップとリカバリ"](#) または ["BlueXPの分類"](#) をクリックして、ご使用の環境でサービスがアクティブでライセンスされていることを確認してください。

2

Application Templates サービスを起動します

[正常性]>[修正]を選択し、[*エディタ]タブをクリックして、テンプレートで使用するアクションを選択します。

3

「アクション」を選択し、パラメーターを定義して、テンプレートを作成します

作成手順に従い、テンプレートによって実行されるアクションを定義します。

要件

以下の要件を読み、サポートされている構成になっていることを確認してください。

- コネクタがない場合は、["コネクターの作成方法を参照してください"](#) AWS、Azure、GCP 向け。
- Cloud Volumes ONTAP ボリュームテンプレートを作成する際には、Cloud Volumes ONTAP 作業環境がユーザに利用できることを確認してください。で Cloud Volumes ONTAP システムを起動する方法を参照してください ["AWS"](#)、["Azure"](#) または、のいずれかです ["GCP"](#)。
- オンプレミスの ONTAP ボリュームテンプレートを作成する場合は、オンプレミスの ONTAP 作業環境がユーザに利用できることを確認します。方法を参照してください ["オンプレミスの ONTAP システムを検出"](#) BlueXP では、
- Azure NetApp Files ボリュームテンプレートを作成する際には、Azure NetApp Files の作業環境がユーザに割り当てられていることを確認します。方法を参照してください ["Azure NetApp Files 作業環境を作成"](#)

します" BlueXPでは、

- BlueXPのバックアップとリカバリを使用してテンプレート内のボリュームをバックアップする場合は、環境でBlueXPのバックアップとリカバリをアクティブ化していることを確認してください。
- BlueXP分類を使用してテンプレート内のボリュームをスキャンする場合は、環境でBlueXP分類がアクティブ化されていることを確認してください。
- オンプレミスのONTAP ボリューム用のテンプレートでBlueXPレプリケーションを有効にする場合は、ONTAP クラスタにアクティブなSnapMirrorライセンスが必要です。

テンプレートを使用してリソースを作成する例

リソーステンプレートを使用して、新しいボリュームや新しい Cloud Volumes ONTAP 作業環境を作成できます。

Cloud Volumes ONTAP ボリュームのテンプレートを作成します

を参照してください "[Cloud Volumes ONTAP ボリュームをプロビジョニングする方法](#)" Cloud Volumes ONTAP ボリュームテンプレートで実行する必要があるすべてのパラメータの詳細については、を参照してください。

この例では、「データベース用の CVO ボリューム」という名前のテンプレートを作成し、次の 2 つのアクションを含めます。

- Cloud Volumes ONTAP ボリュームを作成します

AWS 環境のボリュームを 100GB のストレージで設定し、Snapshot ポリシーを「default」に設定し、Storage Efficiency を有効にします。

- BlueXPのバックアップとリカバリを有効にする

30 個の日単位バックアップ、13 個の週単位バックアップ、3 個の月単位バックアップを作成します（_3 カ月保持ポリシーを使用）。

手順

1. [正常性]>[修正]を選択し、[*テンプレート]タブをクリックして、[新しいテンプレートの追加]をクリックします。

Select_a Template_page が表示されます。

Select a Template to Get Started

Choose a template for the type of resource you want to create and then customize the parameters for what's required in your environment.

For even greater flexibility, choose the "blank" template to mix and match configurations and to apply additional Cloud Manager services.

Start with a template of:

Blank template

Volume for Cloud Volumes ONTAP

✓
 Volume for Cloud Volumes ONTAP + Backup

Volume for Azure NetApp files

Get Started
Cancel

- 作成するリソースのタイプとして * Cloud Volumes ONTAP + Backup * のボリュームを選択し、* Get Started * をクリックします。

Cloud Volumes ONTAP アクション定義ページでのボリュームの作成（_Create Volume in Action Definition_page）が表示されます。

Enter a name for this template

Reset Zoom

```

graph TD
    A[Create Volume in Cloud Volumes ONTAP (#1da)] -- "+" --> B[Enable Cloud Backup On Volume (#a09)]
          
```

Create Volume in Cloud Volumes ONTAP (#1da)

Action Definition

Details

Volume Name ☐ Editable ☐ Drift

Select...

Volume Size (GB) ☐ Editable ☐ Drift

Minimum Maximum

☐ Enter minimum Enter maximum

Fixed value ☒ Editable ☐ Drift

☒ Enter volume size

Tags ☒ Editable ☐ Drift

+ Add Tags

Protection

Snapshot Policy ☐ Editable ☐ Drift

Select snapshot policy

Usage Profile

Apply
Cancel

- * アクション名 * : オプションで、デフォルト値の代わりにカスタマイズされたアクション名を入力します。

4. * コンテキスト： * Cloud Volumes ONTAP 作業環境コンテキストを入力します（必要な場合）。

ユーザが既存の作業環境からテンプレートを起動すると、この情報は自動的に入力されます。

ユーザが（作業環境ではなく） Templates Dashboard からテンプレートを起動する際には、作業環境とボリュームを作成する SVM を選択する必要があります。そのため、これらのフィールドは「編集可能」としてマークされます。

5. * 詳細： * ボリュームの名前とサイズを入力します。

フィールド	説明
ボリューム名	フィールド内をクリックし、5つのオプションのいずれかを選択します。任意の名前を入力するには、* Free Text * を選択します。ボリューム名に特定のプレフィックスまたはサフィックスを付けるか、_contains_certain 文字を指定するか、または入力した正規表現（regex）のルールに従うように指定することもできます。たとえば、「db」には必須のプレフィックス、サフィックス、またはに次の名前を指定できます。「db_vol1」、「vol1_db」、「vol_db_1」などのボリューム名を追加するようユーザに要求できます。
ボリュームサイズ	許容値の範囲を指定することも、固定サイズを指定することもできます。この値は GB 単位です。この例では、固定値 100 を追加できます。
タグ	このボリュームに関連付けるタグの名前と値のペアを入力します。たとえば、タグ名に「コストセンター」を追加し、コストセンターコード「655829」を値として追加できます。タグ名と値のペアをさらに追加することで、ボリュームに複数のタグを関連付けることができます。

6. * 保護： * 「default」またはその他のポリシーを選択して Snapshot コピーを作成するか、Snapshot コピーを作成しない場合は「None」を選択します。
7. * 使用プロファイル： * ネットアップの Storage Efficiency 機能をボリュームに適用するかどうかを選択します。これには、シンプロビジョニング、重複排除、圧縮が含まれます。この例では、Storage Efficiency を有効にしておきます。
8. * ディスクタイプ：クラウドストレージプロバイダとディスクタイプを選択ディスクの選択によっては、最小および最大の IOPS またはスループット（MB/秒）値を選択することもできます。基本的には、特定の Quality of Service（QoS；サービス品質）を定義します。
9. * プロトコルオプション： * NFS * または * SMB * を選択して、ボリュームのプロトコルを設定します。次に、プロトコルの詳細を指定します。

NFS フィールド	説明
Access Control の略	ボリュームへのアクセスにアクセス制御が必要かどうかを選択します。
エクスポートポリシー	ボリュームにアクセスできるサブネット内のクライアントを定義するエクスポートポリシーを作成します。
NFS バージョン	ボリュームの NFS バージョンを選択します。nfsv3_or_nfsv4、またはその両方を選択できます。

SMB フィールド	説明
共有名	フィールド内をクリックし、5つのオプションのいずれかを選択します。任意の名前（フリーテキスト）を入力するか、共有名に特定のプレフィックスまたはサフィックスを付加する、_contains_certain 文字を使用する、または入力した正規表現（regex）のルールに従うように指定できます。
権限	ユーザとグループ（アクセス制御リストまたは ACL と呼ばれる）の共有へのアクセスのレベルを選択します。
ユーザ / グループ	ローカルまたはドメインの Windows ユーザまたはグループ、あるいは UNIX ユーザまたはグループを指定します。ドメインの Windows ユーザ名を指定する場合は、domain\username 形式でユーザのドメインを指定する必要があります。

10. * 階層化：* ボリュームに適用する階層化ポリシーを選択します。このボリュームからオブジェクトストレージにコールドデータを階層化しない場合は、「なし」に設定します。

を参照してください ["ボリューム階層化ポリシー" 概要](#)については、およびを参照してください ["使用頻度の低いデータをオブジェクトストレージに階層化します"](#) をクリックして、環境が階層化用に設定されていることを確認してください。

11. このアクションに必要なパラメーターを定義したら、* 適用 * をクリックする。

テンプレートの値が正しく入力されている場合は、[ボリュームを Cloud Volumes ONTAP に作成] ボックスに緑のチェックマークが追加されます。

12. [Enable Cloud Backup on Volume]*ボックスをクリックします。BlueXPのバックアップとリカバリの詳細を入力できるように、[_Enable Cloud Backup on Volume Action Definition_Dialog]が表示されます。

Enable Cloud Backup On Volume (#a09)

Action Definition

Policy - Retention & Schedule

Backup Policy ☐ Editable ☐ Drift
 Select policy

Context

Working Environment ☒ Editable ☐ Drift
 Select Working Environment

Storage VM ☒ Editable ☐ Drift
 Select Storage VM

Volume Name ☐ Editable ☐ Drift

Get input value from action ×

Create Volume in Cloud Volumes ONTAP (#1da) ×

Volume Name ×

Apply Cancel

13. 3 カ月保持 * バックアップ・ポリシーを選択し、30 個の日単位、13 個の週単位、3 個の月単位バックアップを作成します。
14. [Working Environment] フィールドと [Volume Name] フィールドの下には、バックアップを有効にするボリュームを指定するために使用する 3 つの選択肢があります。を参照してください ["これらのフィールドの入力方法"](#)。
15. [適用]*をクリックすると、BlueXPのバックアップとリカバリのダイアログが保存されます。
16. 左上に、データベース *（この例では）のテンプレート名 * CVO ボリュームを入力してください。
17. [* 設定とドリフト *] をクリックして、このテンプレートを他の同様のテンプレートと区別できるように、より詳細な概要を提供します。したがって、テンプレート全体のドリフトを有効にしてから、[* 適用 *] をクリックします。

ドリフトを使用すると、BlueXPでは、このテンプレートの作成時に入力したハードコードされた値を監視できます。

18. [テンプレートの保存 *] をクリックします。

結果

テンプレートが作成され、新しいテンプレートが表示されるテンプレートダッシュボードに戻ります。

を参照してください [テンプレートについてユーザに説明する必要がある内容](#)。

Azure NetApp Files ボリュームのテンプレートを作成します

Azure NetApp Files ボリュームのテンプレートは、Cloud Volumes ONTAP ボリュームのテンプレートを作成する場合と同じ方法で作成します。

を参照してください ["Azure NetApp Files ボリュームをプロビジョニングする方法"](#) ANF ボリュームテンプレートで実行する必要があるすべてのパラメータの詳細については、を参照してください。

手順

1. [正常性]>[修正]を選択し、[*テンプレート]タブをクリックして、[新しいテンプレートの追加]をクリックします。

Select_a Template_page が表示されます。

Select a Template to Get Started

Choose a template for the type of resource you want to create and then customize the parameters for what's required in your environment.

For even greater flexibility, choose the "blank" template to mix and match configurations and to apply additional Cloud Manager services.



Start with a template of:

☒ Blank template

☐ Volume for Cloud Volumes ONTAP + Backup

☐ Volume for Cloud Volumes ONTAP + Backup + Data Sense

☐ Volume for Azure NetApp files + Data Sense

Get Started

Cancel

2. [空白のテンプレート] を選択し、[開始] をクリックします。
3. 作成するリソースのタイプとして * Azure NetApp Files でボリュームを作成 * を選択し、* 適用 * をクリックします。

Azure NetApp Files アクション定義ページでのボリュームの作成（_Create Volume in Action Definition_page）が表示されます。

Enter a name for this template

Reset Zoom

Create Volume in Azure NetApp Files (#23c)

+

Create Volume in Azure NetApp Files (#23c)

Action Definition

Volume Details

Volume Name ? ☐ Editable ☐ Drift
Select...

Volume Size (GB) ☐ Editable ☐ Drift

Minimum ☐ Enter minimum Maximum ☐ Enter maximum

Fixed value ☒ Enter volume size in GB

Tags ☒ Editable ☐ Drift
☒ Add Tags

Protocol

Protocol ☐ Editable ☐ Drift
☒ NFSv3 ☐ NFSv4.1 ☐ SMB

Volume Path ? ☐ Editable ☐ Drift
Select...

Apply Cancel

4. * アクション名 * : オプションで、デフォルト値の代わりにカスタマイズされたアクション名を入力します。

5. * ボリュームの詳細： * ボリュームの名前とサイズを入力します。必要に応じて、ボリュームのタグを指定することもできます。

フィールド	説明
ボリューム名	フィールド内をクリックし、5つのオプションのいずれかを選択します。任意の名前を入力するには、* Free Text * を選択します。ボリューム名に特定のプレフィックスまたはサフィックスを付けるか、_contains_certain 文字を指定するか、または入力した正規表現（regex）のルールに従うように指定することもできます。たとえば、「db」には必須のプレフィックス、サフィックス、またはに次の名前を指定できます。「db_vol1」、「vol1_db」、「vol_db_1」などのボリューム名を追加するようユーザに要求できます。
ボリュームサイズ	許容値の範囲を指定することも、固定サイズを指定することもできます。この値は GB 単位です。
タグ	このボリュームに関連付けるタグの名前と値のペアを入力します。たとえば、タグ名に「コストセンター」を追加し、コストセンターコード「655829」を値として追加できます。タグ名と値のペアをさらに追加することで、ボリュームに複数のタグを関連付けることができます。

6. * プロトコル：ボリュームのプロトコルを設定するには、* nfsv3 *、* NFSv4.1 *、または * smb * を選択します。次に、プロトコルの詳細を指定します。

NFS フィールド	説明
ボリュームパス	5つのオプションのいずれかを選択します。管理者が任意のパスを入力できるようにするには、* フリーテキスト * を選択するか、パス名に特定の接頭辞または接尾辞を付けるか、_contains_certain 文字を使用するか、または入力した正規表現（regex）の規則に従うように指定します。
エクスポートポリシー	ボリュームにアクセスできるサブネット内のクライアントを定義するエクスポートポリシーを作成します。

SMB フィールド	説明
ボリュームパス	5つのオプションのいずれかを選択します。管理者が任意のパスを入力できるようにするには、* フリーテキスト * を選択するか、パス名に特定の接頭辞または接尾辞を付けるか、_contains_certain 文字を使用するか、または入力した正規表現（regex）の規則に従うように指定します。

7. * コンテキスト： * Azure NetApp Files 作業環境、新規または既存の Azure NetApp Files アカウントの詳細、およびその他の詳細を入力します。

フィールド	説明
作業環境	ストレージ管理者ユーザが既存の作業環境からテンプレートを起動すると、この情報は自動的に入力されます。ユーザが（作業環境ではなく）Templates Dashboard からテンプレートを起動する場合、ボリュームを作成する作業環境を選択する必要があります。
ネットアップアカウント名	アカウントに使用する名前を入力します。
Azure サブスクリプション ID	Azure サブスクリプション ID を入力します。これは、「2b04f26-7de6-42eb-9234-e2903d7s327」のような形式のフル ID です。

フィールド	説明
地域	を使用してリージョンを入力します "内部リージョン名" 。
リソースグループ名	使用するリソースグループの名前を入力します。
Capacity Pool Name の略	既存の容量プールの名前を入力します。
サブネット	VNet とサブネットを入力します。この値には、完全パスが含まれます。形式は「 /subscription/<subscription_id>/resourceGroups/<resource_group>/provider/Microsoft.Network/virtualNetworks/<vpc_name>/subnets/<subhet_name>」です。

8. * Snapshot コピー： * 既存のボリュームの特性を使用して新しいボリュームを作成する場合は、既存のボリューム Snapshot の Snapshot ID を入力します。
9. このアクションに必要なパラメーターを定義したら、 * 適用 * をクリックする。
10. テンプレートに使用する名前を左上に入力します。
11. [* 設定とドリフト *] をクリックして、このテンプレートを他の同様のテンプレートと区別できるように、より詳細な概要を提供します。したがって、テンプレート全体のドリフトを有効にしてから、[* 適用 *] をクリックします。

ドリフトを使用すると、BlueXPでは、このテンプレートの作成時に入力したハードコードされた値を監視できます。

12. [テンプレートの保存 *] をクリックします。

結果

テンプレートが作成され、新しいテンプレートが表示されるテンプレートダッシュボードに戻ります。

を参照してください [テンプレートについてユーザに説明する必要がある内容](#)。

オンプレミスの **ONTAP** ボリューム用のテンプレートを作成します

を参照してください ["オンプレミスの ONTAP ボリュームをプロビジョニングする方法"](#) オンプレミスの ONTAP ボリュームテンプレートで実行する必要があるすべてのパラメータの詳細については、を参照してください。

手順

1. [正常性]>[修正]を選択し、[*テンプレート]タブをクリックして、[新しいテンプレートの追加]をクリックします。

Select_a Template_page が表示されます。

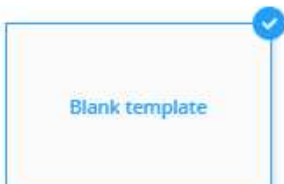
Select a Template to Get Started

Choose a template for the type of resource you want to create and then customize the parameters for what's required in your environment.

For even greater flexibility, choose the "blank" template to mix and match configurations and to apply additional Cloud Manager services.



Start with a template of:



Volume for Cloud
Volumes ONTAP +
Backup

Volume for Cloud
Volumes ONTAP +
Backup + Data Sense

Volume for Azure
NetApp files + Data
Sense

Get Started

Cancel

2. [空白のテンプレート] を選択し、[開始] をクリックします。

[新規アクションの追加 (Add New Action)] ページが表示されます。

Add New Action



Search for actions

ACTIONS - RESOURCES

Create Volume in Azure NetApp Files

Create Volume in Cloud Volumes ONTAP

Create Volume in On-Premises ONTAP

Create Working Environment in AWS (single node)

ACTIONS - SERVICES

Activate Cloud Data Sense on Volume

Apply

Cancel

- 作成するリソースのタイプとして * Create Volume in On-Premises ONTAP * を選択し、* Apply * をクリックします。

オンプレミスの ONTAP アクション定義ページでのボリュームの作成（_Create Volume in On-Premises Action Definition_page）が表示されます。

The screenshot shows the 'Create Volume in On-Premises ONTAP (#7b6)' action definition page. The left pane displays a canvas with a single action box labeled 'Create Volume in On-Premises ONTAP (#7b6)'. The right pane contains the configuration details for this action, including fields for Volume Name, Volume Size (GB), Tags, Snapshot Policy, and Usage Profile. The 'Volume Size (GB)' section has options for Minimum, Maximum, and Fixed value. The 'Tags' section has an 'Add Tags' button. The 'Snapshot Policy' section has a dropdown menu. The 'Usage Profile' section has a dropdown menu. The 'Apply' and 'Cancel' buttons are at the bottom right.

- * アクション名 * : オプションで、デフォルト値の代わりにカスタマイズされたアクション名を入力します。
- * コンテキスト * : * 必要に応じて、オンプレミスの ONTAP 作業環境を入力します。

ユーザが既存の作業環境からテンプレートを起動すると、この情報は自動的に入力されます。

ユーザが（作業環境ではなく）Templates Dashboard からテンプレートを起動する際には、作業環境、SVM、およびボリュームを作成するアグリゲートを選択する必要があります。

- * 詳細 * : * ボリュームの名前とサイズを入力します。

フィールド	説明
ボリューム名	フィールド内をクリックし、5つのオプションのいずれかを選択します。任意の名前を入力するには、* Free Text * を選択します。ボリューム名に特定のプレフィックスまたはサフィックスを付けるか、_contains_certain 文字を指定するか、または入力した正規表現（regex）のルールに従うように指定することもできます。たとえば、「db」には必須のプレフィックス、サフィックス、またはに次の名前を指定できます。「db_vol1」、「vol1_db」、「vol_db_1」などのボリューム名を追加するようユーザに要求できます。
ボリュームサイズ	許容値の範囲を指定することも、固定サイズを指定することもできます。この値は GB 単位です。この例では、固定値 100 を追加できます。

フィールド	説明
タグ	このボリュームに関連付けるタグの名前と値のペアを入力します。たとえば、タグ名に「コストセンター」を追加し、コストセンターコード「655829」を値として追加できます。タグ名と値のペアをさらに追加することで、ボリュームに複数のタグに関連付けることができます。

7. * 保護：* 「default」またはその他のポリシーを選択して Snapshot コピーを作成するか、Snapshot コピーを作成しない場合は「None」を選択します。
8. * 使用プロファイル：* ネットアップの Storage Efficiency 機能をボリュームに適用するかどうかを選択します。これには、シンプロビジョニング、重複排除、圧縮が含まれます。
9. * プロトコルオプション：* NFS * または * SMB * を選択して、ボリュームのプロトコルを設定します。次に、プロトコルの詳細を指定します。

NFS フィールド	説明
Access Control の略	ボリュームへのアクセスにアクセス制御が必要かどうかを選択します。
エクスポートポリシー	ボリュームにアクセスできるサブネット内のクライアントを定義するエクスポートポリシーを作成します。
NFS バージョン	ボリュームの NFS バージョンを選択します。 <i>nfsv3_or_nfsv4</i> 、またはその両方を選択できます。

SMB フィールド	説明
共有名	フィールド内をクリックし、5つのオプションのいずれかを選択します。任意の名前（フリーテキスト）を入力するか、共有名に特定のプレフィックスまたはサフィックスを付加する、_contains_certain 文字を使用する、または入力した正規表現（regex）のルールに従うように指定できます。
権限	ユーザとグループ（アクセス制御リストまたは ACL と呼ばれる）の共有へのアクセスのレベルを選択します。
ユーザ / グループ	ローカルまたはドメインの Windows ユーザまたはグループ、あるいは UNIX ユーザまたはグループを指定します。ドメインの Windows ユーザ名を指定する場合は、domain\username 形式でユーザのドメインを指定する必要があります。

10. このアクションに必要なパラメーターを定義したら、* 適用 * をクリックする。

テンプレートの値が正しく入力されている場合は、「オンプレミスの ONTAP にボリュームを作成」ボックスに緑のチェックマークが追加されます。

11. 左上にテンプレート名を入力します。
12. [* 設定とドリフト *] をクリックして、このテンプレートを他の同様のテンプレートと区別できるように、より詳細な概要を提供します。したがって、テンプレート全体のドリフトを有効にしてから、[* 適用 *] をクリックします。

ドリフトを使用すると、BlueXPでは、このテンプレートの作成時に入力したハードコードされた値を監視できます。

13. [テンプレートの保存 *] をクリックします。

結果

テンプレートが作成され、新しいテンプレートが表示されるテンプレートダッシュボードに戻ります。

を参照してください [テンプレートについてユーザに説明する必要がある内容](#)。

Cloud Volumes ONTAP 作業環境のテンプレートを作成します

テンプレートを使用して、シングルノードまたは高可用性 Cloud Volumes ONTAP 作業環境を作成できます。



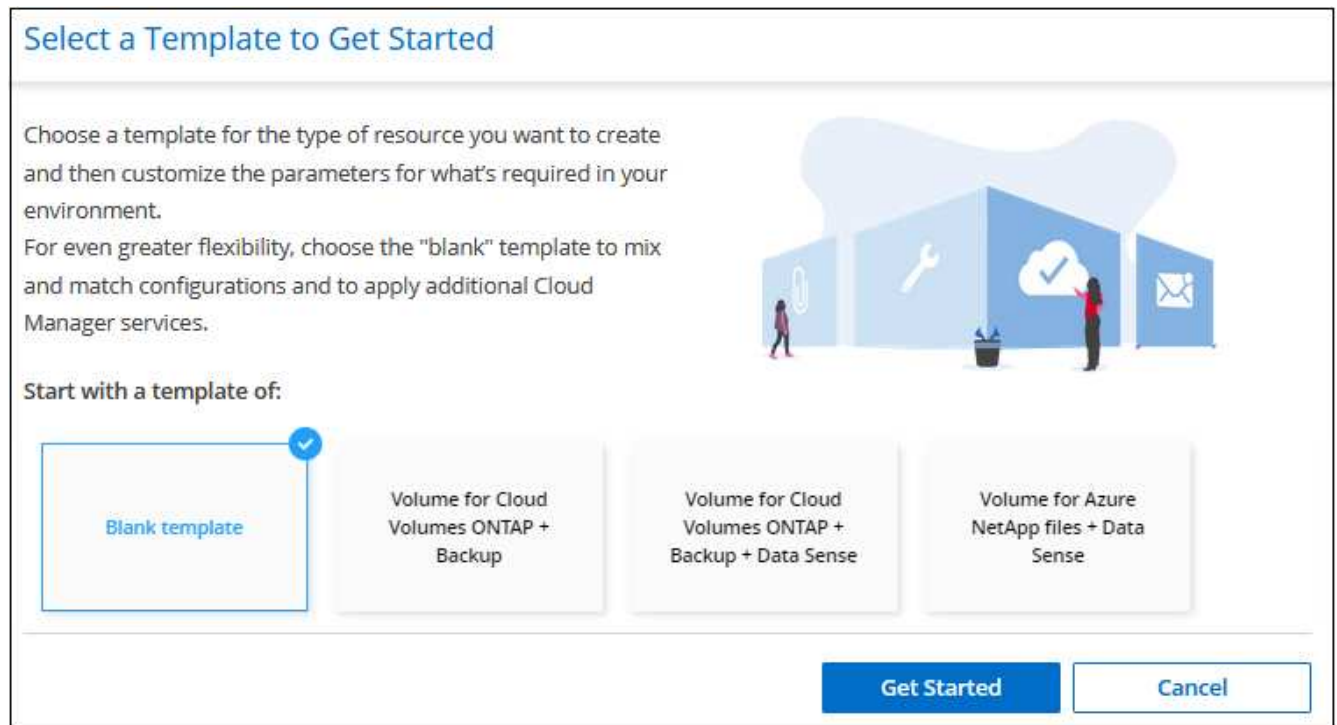
- このサポートは、現時点では AWS 環境に対してのみ提供されています。
- このテンプレートは、作業環境で最初のボリュームを作成するものではありません。ボリュームを作成するには、テンプレートに「Create Volume in Cloud Volumes ONTAP」アクションを追加する必要があります。

を参照してください ["AWS でシングルノードの Cloud Volumes ONTAP システムを起動する方法"](#) または ["AWS での Cloud Volumes ONTAP HA ペア"](#) 必要な前提条件については、このテンプレートで定義する必要があるすべてのパラメータの詳細については、を参照してください。

手順

1. [正常性]>[修正]を選択し、[*テンプレート]タブをクリックして、[新しいテンプレートの追加]をクリックします。

Select_a Template_page が表示されます。



2. [空白のテンプレート]を選択し、[開始]をクリックします。

[新規アクションの追加 (Add New Action)] ページが表示されます。

Add New Action

Create Volume in Azure NetApp Files

Create Volume in Cloud Volumes ONTAP

Create Volume in On-Premises ONTAP

Create Working Environment in AWS (high availability)

Create Working Environment in AWS (single node)

Find Existing Resources

3. 作成するリソースのタイプとして、 * Create Working Environment in AWS （シングルノード） * または * Create Working Environment in AWS （ハイアベイラビリティ） * を選択し、 * Apply * をクリックします。

この例では、「 _Create Working Environment in AWS （ single node ） _page 」が表示されます。

Create Working Environment in AWS (single node) (#a22)

Action Definition

Action Name ⓘ

Create Working Environment in AWS (single node) (#a22)

Details and Credentials

Credentials

×

▼

Working Environment Name ⓘ

Select...

▼

Tags

☒ Editable

☐ Drift

+

Add Tags

4. * アクション名 * : オプションで、デフォルト値の代わりにカスタマイズされたアクション名を入力します。
5. * 詳細とクレデンシャル * : 使用する AWS クレデンシャルを選択し、作業環境名を入力して、必要に応じてタグを追加します。

このページの一部のフィールドは、説明のために用意されています。次の表では、ガイダンスが必要なフィールドについて説明します。

フィールド	説明
クレデンシャル	これらは、Cloud Volumes ONTAP クラスタ管理アカウントのクレデンシャルです。これらのクレデンシャルを使用して、ONTAP System Manager またはその CLI を使用して Cloud Volumes ONTAP に接続できます。
作業環境名	BlueXPでは、作業環境名を使用してCloud Volumes ONTAP システムとAmazon EC2インスタンスの両方に名前を付けます。また、このオプションを選択した場合は、事前定義されたセキュリティグループのプレフィックスとして名前が使用されます。フィールド内をクリックし、5つのオプションのいずれかを選択します。管理者が任意の名前を入力できるようにするには、* フリーテキスト * を選択するか、作業環境名に特定の接頭辞または接尾辞を付けるか、_contains_certain 文字を使用するか、または入力した正規表現（regex）の規則に従うように指定します。
タグ	AWS タグは、AWS リソースのメタデータです。BlueXPは、Cloud Volumes ONTAP インスタンスとそのインスタンスに関連付けられている各AWSリソースにタグを追加します。タグの詳細については、を参照してください "AWS ドキュメント：「Tagging your Amazon EC2 Resources」 。

6. * 場所と接続 * : に記録したネットワーク情報を入力します ["AWS ワークシート"](#)。これには、AWS リージョン、VPC、サブネット、セキュリティグループが含まれます。

15

AWS Outpost を使用している場合は、Outpost VPC を選択して、その Outpost に単一のノードの Cloud Volumes ONTAP システムを導入できます。エクスペリエンスは、AWS に存在する他の VPC と同じです。

7. * 認証方法 * : 使用する SSH 認証方法として、パスワードまたはキーペアを選択します。

8. * データ暗号化 * : データ暗号化なし、または AWS で管理する暗号化を選択します。

AWS で管理する暗号化の場合は、アカウントまたは別の AWS アカウントから別の Customer Master Key (CMK ; カスタマーマスターキー) を選択できます。

["Cloud 用の AWS KMS の設定方法については、こちらをご覧ください Volume ONTAP の略"。](#)

9. * 充電方法 * : このシステムで使用する充電オプションを指定します。

["これらの充電方法について説明します"。](#)


10. * ネットアップサポートサイトのアカウント * : ネットアップサポートサイトのアカウントを選択します。

11. * 構成済みパッケージ * : 作業環境で作成されたボリュームのいくつかの要因を決定する 4 つの構成済みパッケージのいずれかを選択します

12. * SMB 構成 * : この作業環境で SMB を使用してボリュームを導入する場合は、CIFS サーバと関連する構成要素をセットアップできます。

13. このアクションに必要なパラメーターを定義したら、* 適用 * をクリックする。

テンプレートの値が正しく入力されている場合は、「Create Working Environment in AWS (単一ノード)」ボックスに緑のチェックマークが追加されます。

14. このテンプレートに別の操作を追加して、この作業環境用のボリュームを作成することもできます。その場合は、をクリックします  そのアクションを追加します。方法を参照してください [Cloud Volumes ONTAP ボリュームのテンプレートを作成します](#) を参照してください。

15. 左上にテンプレート名を入力します。

16. [* 設定とドリフト *] をクリックして、このテンプレートを他の同様のテンプレートと区別できるように、より詳細な概要を提供します。したがって、テンプレート全体のドリフトを有効にしてから、[* 適用 *] をクリックします。

ドリフトを使用すると、BlueXPでは、このテンプレートの作成時に入力したハードコードされた値を監視できます。

17. [テンプレートの保存 *] をクリックします。

結果

テンプレートが作成され、新しいテンプレートが表示されるテンプレートダッシュボードに戻ります。

を参照してください [テンプレートについてユーザに説明する必要がある内容](#)。

テンプレートを使用して既存のリソースを検索する例

既存のリソースを検索 _action を使用すると、特定の作業環境を検索したり、さまざまなフィルタを使用して既存のボリュームを検索したりできるため、検索対象を目的のリソースだけに絞り込むことができます。正しいリソースが見つかったら、作業環境にボリュームを追加するか、作成されたボリュームでクラウドサービス

を有効にすることができます。



この時点で、Cloud Volumes ONTAP、オンプレミス ONTAP、Azure NetApp Files システム内にボリュームを見つけることができます。また、Cloud Volumes ONTAP ボリュームとオンプレミスのONTAP ボリュームでBlueXPのバックアップとリカバリを有効にすることもできます。追加のリソースとサービスは、後で利用可能になります。

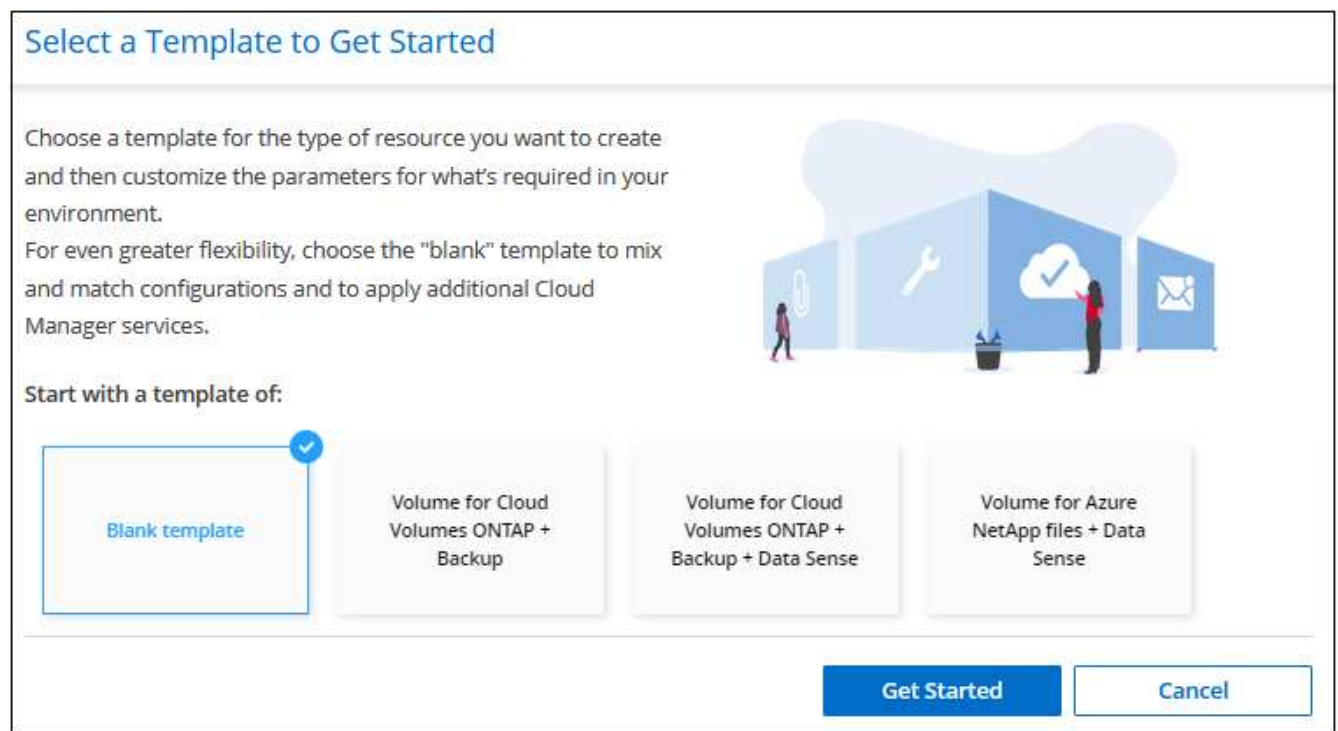
既存のボリュームを検索し、クラウドサービスをアクティブ化

current_Find Existing Resources_action機能を使用すると、現在BlueXPのバックアップとリカバリや分類が有効になっていないCloud Volumes ONTAP およびオンプレミスのONTAP 作業環境上のボリュームを検索できます。特定のボリュームでBlueXPのバックアップとリカバリを有効にすると、その作業環境のデフォルトポリシーとして設定したバックアップポリシーも設定されます。これにより、作業環境の今後のすべてのボリュームで同じバックアップポリシーを使用できるようになります。

手順

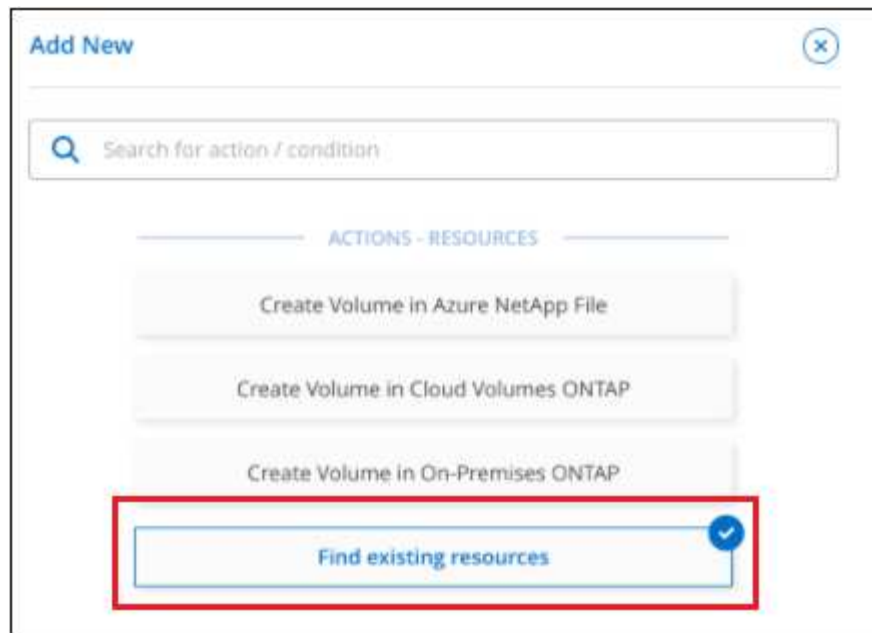
1. [正常性]>[修正]を選択し、[*テンプレート]タブをクリックして、[新しいテンプレートの追加]をクリックします。

Select_a Template_page が表示されます。



2. [空白のテンプレート]を選択し、[開始]をクリックします。

[新規アクションの追加 (Add New Action)] ページが表示されます。



3. 定義するアクションのタイプとして * 既存のリソースを検索 * を選択し、* 適用 * をクリックします。

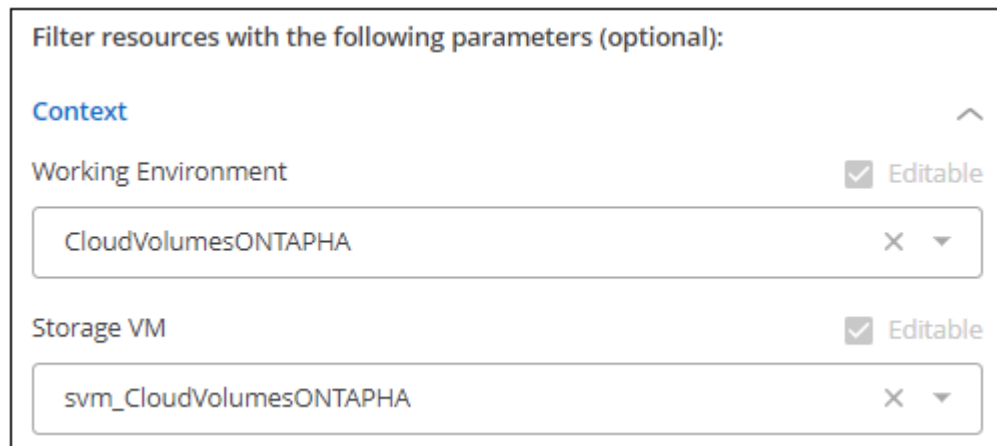
既存リソースを検索アクション定義ページが表示されます

4. * アクション名 * : デフォルト値の代わりに、カスタマイズされたアクション名を入力します。たとえば、「Cluster ABC で大容量ボリュームを検索してバックアップを有効にする」などです。
5. * リソースタイプ : * 検索するリソースのタイプを選択します。この場合は、「* Volumes in Cloud Volumes ONTAP *」を選択します。

このアクションに必要なエントリは、これだけです。「* Continue *」をクリックすると、環境内のすべての Cloud Volumes ONTAP システム上のすべてのボリュームのリストが表示されます。

代わりに、いくつかのフィルタに入力して、BlueXPのバックアップとリカバリのアクションを適用する結果（この場合はボリューム）を少なくすることを推奨します。

6. `_Context_area` では、特定の作業環境とその作業環境に関するその他の詳細を選択できます。



Filter resources with the following parameters (optional):

Context ^

Working Environment ☒ Editable

CloudVolumesONTAPHA X ▾

Storage VM ☒ Editable

svm_CloudVolumesONTAPHA X ▾

7. 詳細領域では、ボリューム名、ボリュームサイズの範囲、およびボリュームに割り当てられているタグを選択できます。

ボリューム名として、フィールド内をクリックし、5つのオプションのいずれかを選択します。任意の名前を入力するには、* Free Text * を選択します。ボリューム名に特定のプレフィックスまたはサフィックスを付けるか、`_contains_certain` 文字を指定するか、または入力した正規表現（regex）のルールに従うように指定することもできます。

ボリュームサイズの範囲を指定できます。たとえば、100GiB ~ 500GiB のすべてのボリュームを指定できます。

タグの場合、特定のタグキー / 値ペアを含むボリュームのみが結果に表示されるように、検索をさらに絞り込むことができます。

Details ⓘ

Volume Name ⓘ

Select...

Volume Size (GB)

Minimum
Maximum

Enter minimum

Enter maximum

Tags (up to 30)

Key (1)
Value (1)

×

+ Add Tags (up to 30)

8. [* Continue （続行）] をクリックすると、ページが更新され、テンプレートで定義した検索条件が表示されます。

Search Criteria ⓘ

Resource Type: Volumes in Cloud Volumes ONTAP

Working Environment: CloudVolumesONTAPHA

Storage VM: svm_CloudVolumesONTAPHA

Volume Size (GB): 100 - 500

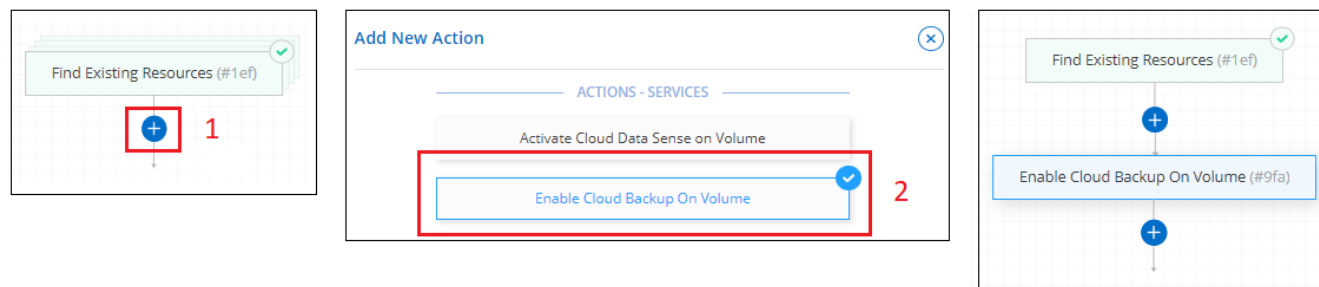
Test your search criteria now →

9. [検索条件を今すぐテストする] をクリックして、現在の結果を表示します。
- 結果が想定どおりでない場合は、をクリックします ⓘ をクリックし、さらに検索条件を絞り込んでください。
 - 結果が正常に表示されたら、「 * 完了 * 」をクリックします。

完成した既存のリソースを検索アクションがエディタウィンドウに表示されます

10. プラス記号をクリックして別のアクションを追加し、 * ボリュームでクラウドバックアップを有効にする * を選択して、 * 適用 * をクリックします。

[Enable Cloud Backup on Volume_action_] がウィンドウに追加されます。



11. で説明したように、バックアップ条件を定義できます [ボリュームにバックアップ機能を追加する](#) これにより、テンプレートは、既存のリソースを検索アクションで選択したボリュームに正しいバックアップポリシーを適用します。
12. [適用] をクリックして、[バックアップ] アクションに加えたカスタマイズを保存し、完了したら [テンプレートの保存] をクリックします。

結果

テンプレートが作成され、新しいテンプレートが表示されるテンプレートダッシュボードに戻ります。

を参照してください [テンプレートについてユーザに説明する必要がある内容](#)。

既存の作業環境を検索

既存のリソースを検索アクションを使用すると '作業環境を検索し' ボリュームの作成などの他のテンプレートアクションを使用して '既存の作業環境に対して簡単にアクションを実行できます

手順

1. [正常性]>[修正]を選択し、[*テンプレート]タブをクリックして、[新しいテンプレートの追加]をクリックします。

Select_a Template_page が表示されます。

Select a Template to Get Started

Choose a template for the type of resource you want to create and then customize the parameters for what's required in your environment.

For even greater flexibility, choose the "blank" template to mix and match configurations and to apply additional Cloud Manager services.



Start with a template of:

☒ Blank template

☐ Volume for Cloud Volumes ONTAP + Backup

☐ Volume for Cloud Volumes ONTAP + Backup + Data Sense

☐ Volume for Azure NetApp files + Data Sense

Get Started

Cancel

2. [空白のテンプレート] を選択し、[開始] をクリックします。

[新規アクションの追加 (Add New Action)] ページが表示されます。

Add New

Search for action / condition

ACTIONS - RESOURCES

Create Volume in Azure NetApp File

Create Volume in Cloud Volumes ONTAP

Create Volume in On-Premises ONTAP

Find existing resources

3. 定義するアクションのタイプとして * 既存のリソースを検索 * を選択し、* 適用 * をクリックします。

既存リソースを検索アクション定義ページが表示されます

4. * アクション名 * : デフォルト値の代わりに、カスタマイズされたアクション名を入力します。たとえば、「ダラスを含む作業環境を検索」とします。
5. * リソースタイプ : * 検索するリソースのタイプを選択します。この場合は、* 作業環境 * を選択します。

このアクションに必要なエントリは、これだけです。[* Continue * Now] をクリックすると、環境内のすべての作業環境のリストが表示されます。

代わりに、いくつかのフィルタを入力して結果の数を減らすことを推奨します（この場合は作業環境）。

6. _Details_area でいくつかのフィルタを定義したら ' 特定の作業環境を選択できます
7. [* Continue * （続行）] をクリックして設定を保存し、[* Done * （完了 * ）] をクリックします。
8. 左上にテンプレート名を入力し、[テンプレートの保存] をクリックします

結果

テンプレートが作成され、新しいテンプレートが表示されるテンプレートダッシュボードに戻ります。

を参照してください [テンプレートについてユーザに説明する必要がある内容](#)。

テンプレートを使用してサービスを有効にする例

サービステンプレートを使用すると、新しく作成したボリュームで、BlueXPのバックアップとリカバリ、BlueXP分類、またはBlueXPレプリケーション（SnapMirror）サービスをアクティブ化できます。

ボリュームにバックアップ機能を追加します

ボリュームテンプレートを作成する場合、を使用して定期的にボリュームのバックアップを作成するテンプレートに追加できます ["BlueXPのバックアップとリカバリ" サービス](#)



この操作は Azure NetApp Files ボリュームには適用されません。

Enable Cloud Backup (#a09)

Action Definition

Action Name ⓘ

Enable Cloud Backup (#a09)

Policy - Retention & Schedule

Backup Policy ☐ Editable ☐ Drift

Select policy ▼

Context

Working Environment ⓘ ☐ Editable ☐ Drift

Get input value from action	×	▼
Create Volume in Cloud Volumes ONTAP (#1da)	×	▼
Working Environment	×	▼

Storage VM ⓘ ☐ Editable ☐ Drift

Get input value from action	×	▼
Create Volume in Cloud Volumes ONTAP (#1da)	×	▼
Storage VM	×	▼

Volume Name ⓘ ☐ Editable ☐ Drift

Get input value from action	×	▼
Create Volume in Cloud Volumes ONTAP (#1da)	×	▼
Volume Name	×	▼

1. * Policy * : 使用するバックアップポリシーを選択します。
2. * コンテキスト * : デフォルトでは、作業環境、Storage VM、およびボリュームには変数が設定され、同じテンプレートで以前に作成したボリュームのバックアップを作成することを示します。これが必要な場合は、すべて設定されています。

別のボリュームのバックアップを作成する場合は、それらの詳細を手動で入力できます。方法を参照してください "[[コンテキスト \(Context\)](#)] フィールドに入力する" をクリックして、別のボリュームを指定します。

3. [適用] をクリックして変更を保存します。

BlueXPの分類機能をボリュームに追加します

ボリュームテンプレートを作成するときに、を使用してボリュームのコンプライアンスと分類をスキャンする

テンプレートにを追加できます "BlueXPの分類" サービス

Activate Cloud Data Sense on Volume (#87e)

Action Definition

Action Name ⓘ

Activate Cloud Data Sense on Volume (#87e)

Context

Working Environment ⓘ ☐ Editable ☐ Drift

Get input value from action

×

▼

Create Volume in Azure NetApp Files (#a0f)

×

▼

Working Environment

×

▼

Volume Name ⓘ ☐ Editable ☐ Drift

Get input value from action

×

▼

Create Volume in Azure NetApp Files (#a0f)

×

▼

Volume Name

×

▼

Volume UUID ⓘ ☐ Editable ☐ Drift

Get output value from action

×

▼

Create Volume in Azure NetApp Files (#a0f)

×

▼

uuid

Volume Path ⓘ ☐ Editable ☐ Drift

Get input value from action

×

▼

Create Volume in Azure NetApp Files (#a0f)

×

▼

Volume Path

×

▼

Protocol ⓘ ☐ Editable ☐ Drift

Get output value from action

×

▼

Create Volume in Azure NetApp Files (#a0f)

×

▼

protocolTypes

1. * コンテキスト * : デフォルトでは、作業環境、ボリューム名、ボリューム UUID、ボリュームパス、およびプロトコルの変数が入力されます。これは、この同じテンプレートで以前に作成したボリュームのデータをスキャンすることを示します。これが必要な場合は、すべて設定されています。

別のボリュームのデータをスキャンする場合は、それらの詳細を手動で入力できます。方法を参照してください "[[コンテキスト \(Context\)](#)] フィールドに入力する" をクリックして、別のボリュームを指定します。

2. [適用] をクリックして変更を保存します。

BlueXPレプリケーション機能をボリュームに追加します

ボリュームテンプレートを作成するときに、を使用してボリューム内のデータを別のボリュームにレプリケートするテンプレートに追加できます "BlueXPレプリケーション" サービスデータは、 Cloud Volumes ONTAP クラスタまたはオンプレミスの ONTAP クラスタにレプリケートできます。



この操作は Azure NetApp Files ボリュームには適用されません。

BlueXPレプリケーション機能は、ソースボリュームの選択、デスティネーションボリュームの選択、レプリケーション設定の定義の3つの部分で構成されます。各セクションについて以下で説明します。

1. * ソースの詳細 * : レプリケートするソースボリュームの詳細を入力します。

Source Details ⓘ

Source Working Environment ⓘ ☐ Editable ☐ Drift

Get input value from action X ▾

Create Volume in Cloud Volumes ONTAP (#b2e) X ▾

Working Environment X ▾

Source Storage VM ⓘ ☐ Editable ☐ Drift

Get input value from action X ▾

Create Volume in Cloud Volumes ONTAP (#b2e) X ▾

Storage VM X ▾

Source Volume Name ⓘ ☐ Editable ☐ Drift

Get input value from action X ▾

Create Volume in Cloud Volumes ONTAP (#b2e) X ▾

Volume Name X ▾

Source intercluster LIF IPs ⓘ ☒ Editable ☐ Drift

Intercluster LIF IP (1)

X

+

 Add Source intercluster LIF IPs

- a. デフォルトでは、作業環境、Storage VM、およびボリュームについて、最初の 3 つの変数が入力されます。これは、同じテンプレートで以前に作成したボリュームをレプリケートすることを示します。これが必要な場合は、すべて設定されています。

別のボリュームをレプリケートする場合は、それらの詳細を手動で入力できます。方法を参照してください ["\[コンテキスト \(Context\) フィールドに入力する\]"](#) をクリックして、別のボリュームを指定します。

- b. BlueXPレプリケーションを使用するには、ソースとデスティネーションの作業環境がそれぞれのクラスタ間LIFを介して接続されている必要があります。ソース作業環境のクラスタ間 LIF の IP アドレスを入力します。

この情報を取得するには、作業環境をダブルクリックし、メニューアイコンをクリックして、[情報] をクリックします。

2. * デスティネーションの詳細 * : レプリケーション処理によって作成されるデスティネーションボリュームの詳細を入力します。

Destination Details ⓘ

Destination Working Environment ⓘ

☐ Editable☐ Drift

Select destination Working Environment▼

Destination Storage VM ⓘ

☐ Editable☐ Drift

Select destination Storage VM▼

Destination Provider ⓘ

☐ Editable☐ Drift

GCP×▼

☒ Enable Destination Volume Tiering ⓘ

☐ Editable☐ Drift

Destination Volume name ⓘ

☐ Editable☐ Drift

Select...▼

Destination intercluster LIF IPs ⓘ

☒ Editable☐ Drift

Intercluster LIF IP (1)

×

+

 Add Destination intercluster LIF IPs

Select destination aggregate ⓘ

☐ Editable☐ Drift

Automatically manage destination aggregate (recommended)×▼

Destination Disk Type ⓘ

☐ Editable☐ Drift

Select destination disk type▼

- a. ボリュームを作成する作業環境を選択します。

- b. ボリュームを配置する Storage VM を選択します。
 - c. ボリュームを（オンプレミスの ONTAP クラスタではなく） Cloud Volumes ONTAP クラスタにレプリケートする場合は、デスティネーションプロバイダ（AWS、Azure、GCP）を指定する必要があります。
 - d. ボリュームを Cloud Volumes ONTAP クラスタにレプリケートするときに、デスティネーションボリュームでボリューム階層化が有効になっているかどうかを指定することができます。
 - e. デスティネーションボリューム名について、フィールドをクリックし、5 つのオプションのいずれかを選択します。任意の名前を入力するには、* Free Text * を選択します。ボリューム名に特定のプレフィックスまたはサフィックスを付けるか、_contains_certain 文字を指定するか、または入力した正規表現（regex）のルールに従うように指定することもできます。
 - f. BlueXPレプリケーションを使用するには、ソースとデスティネーションの作業環境がそれぞれのクラスタ間LIFを介して接続されている必要があります。デスティネーション作業環境のクラスタ間 LIF の IP アドレスを入力します。
 - g. ボリュームを配置するアグリゲートを選択します。
 - h. ボリュームを（オンプレミスの ONTAP クラスタではなく） Cloud Volumes ONTAP クラスタにレプリケートする場合は、新しいボリュームに使用するディスクのタイプを指定する必要があります。
3. * レプリケーションの詳細 * : レプリケーション操作のタイプと頻度に関する詳細を入力します。

Replication Details ⓘ

Replication Policy ⓘ

☐ Editable
☐ Drift

Select replication policy ▼

Schedule

☐ Editable
☐ Drift

Select schedule ▼

☐ Replication Health Status

☐ Editable
☐ Drift

Enable Transfer Rate Limit

☐ Editable
☐ Drift

☒ Limit transfer rate
☐ Unlimited (recommended for DR only machines)

Transfer Rate Limit (KB/s) ⓘ

☐ Editable
☐ Drift

Minimum

Maximum

☐

Enter minimum

Enter maximum

Fixed value

☒

Enter a value for transfer rate limit

- a. を選択します "レプリケーションポリシー" を使用します。
- b. 1 回限りのコピーまたは繰り返し実行するレプリケーションスケジュールを選択します。
- c. 遅延時間、ステータス、および前回の転送時間に加えて、 SnapMirror 関係のレプリケーションの健全性もドリフトレポートに含める場合は、レプリケーションの健全性ステータスの監視を有効にします。 "ドリフトレポートでは、このような内容を確認できます"。

- d. 転送速度の上限を設定するかどうかを選択し、データの転送速度の上限（1秒あたりのキロバイト数）を入力します。固定値を入力するか、または最小値と最大値を指定して、ストレージ管理者にその範囲の値を選択させることができます。

4. [適用] をクリックして変更を保存します。

テンプレートの作成後の作業

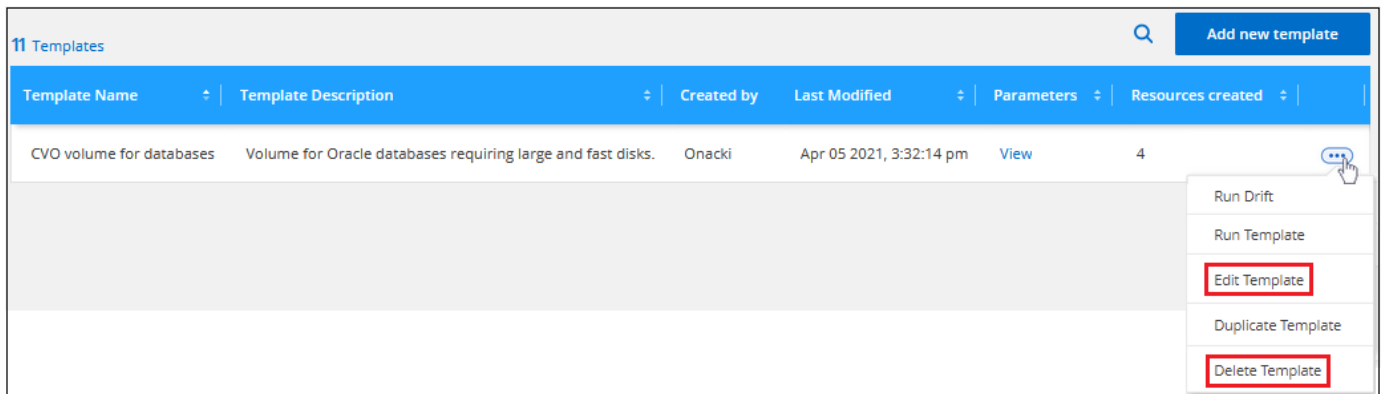
テンプレートを作成したら、新しい作業環境およびボリュームを作成する際にテンプレートを使用するようにストレージ管理者に通知する必要があります。

それらをに示すことができます ["テンプレートを使用したリソースの作成"](#) を参照してください。

テンプレートを編集または削除します

パラメータを変更する必要がある場合は、テンプレートを変更できます。変更を保存すると、テンプレートから作成された以降のすべてのリソースに新しいパラメータ値が使用されます。

不要になったテンプレートを削除することもできます。テンプレートを削除しても、そのテンプレートで作成されたリソースには影響しません。ただし、テンプレートを削除した後にドリフトコンプライアンスチェックを実行することはできません。



テンプレートのコピーを作成します

既存のテンプレートのコピーを作成できます。これにより、既存のテンプレートと非常によく似た新しいテンプレートを作成する場合に、時間を大幅に節約できます。新しい名前で作成し、テンプレートを編集して、テンプレートを一意にする結合アイテムを変更することができます。

3 / 90 Templates						Q	Add new template
Template Name	Template Description	Created by	Last Modified	View	Resources created		
Create AWS CVO (single)		Rabinovich	Aug 16 2021, 5:20:58 am	View	3		
Create CVO volume		Rabinovich	Aug 04 2021, 9:01:01 am	View	19	Run Drift	
Replication to OnPREM		Rabinovich	Aug 04 2021, 10:35:35 am	View	2	Run Template	
						Edit Template	
						Duplicate Template	
						Delete Template	

テンプレートのコンプライアンスについては、リソースを確認してください

BlueXPでは'ドリフト機能を使用してテンプレートを使用してリソースを作成したときに使用されたパラメータ値を監視できますドリフトは、変更され、テンプレート設定に適合しなくなったリソースを識別します。

この時点で、ドリフトはリソース内の変更されたパラメータを識別します。リソースを手動で調整して、テンプレートに準拠させる必要があります。将来的には、リソースがコンプライアンス違反になったときに通知を送信したり、テンプレートから作成されたすべてのリソースが自動的にコンプライアンスに戻されるようにユーザーの変更を元に戻したりすることができます。

ドリフトの仕組み

ドリフトは、次のような非準拠パラメータを識別します。

1. テンプレートを作成するときに、ユーザーに変更をさせたくない特定のパラメーターのドリフトをオンにします。たとえば、テンプレートから作成されたすべてのボリュームに対して、「default」ポリシーを使用して Snapshot コピーの作成を要求できます。

Protection ⓘ

Snapshot Policy
 ☐ Editable
 ☒ Drift

Default
 ×
▼

2. テンプレートのドリフトをオンにして、テンプレートを保存します。

Settings & Drift

Settings

Template Description

Volumes for application testing

Drift

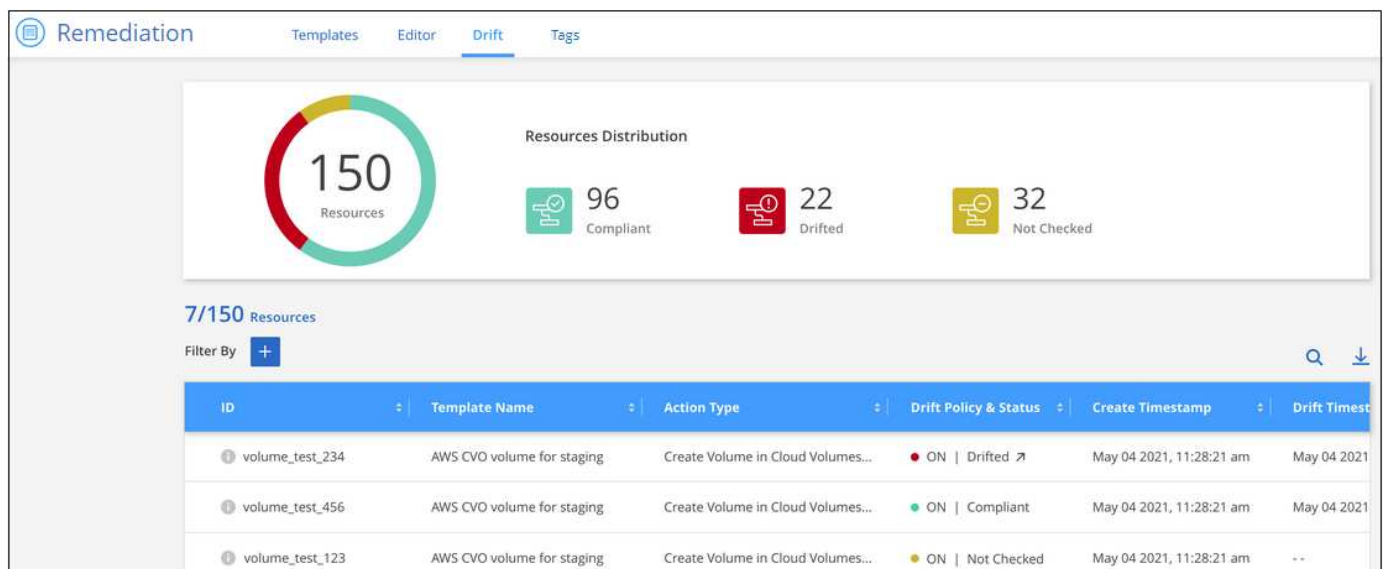
☐ Drift Off
We do not monitor any future changes to resources created with this template.


☒ Drift On
We will monitor future changes to resources created with this template. You can run a Drift Report to see which fields configured with Drift are no longer compliant with the template settings.

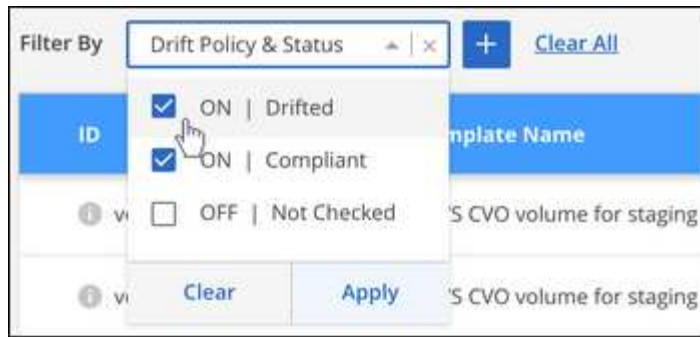
- ストレージ管理者は、テンプレートを実行してボリュームを作成します。
- ストレージ管理者がボリュームを編集し、Snapshot コピーは無効にします。
- すべてのテンプレートに対してドリフトチェックを実行すると、BlueXP修正サービスによってSnapshot コピーテンプレートの設定がボリューム内の現在の設定と比較されます。準拠していない値にはフラグが付けられ、間違った設定を修正できます。


ドリフトダッシュボード

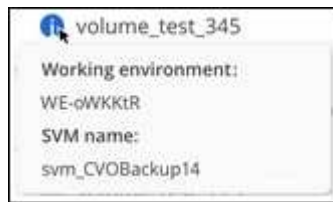
ドリフトダッシュボードには、テンプレートを使用して作成されたリソース（ボリュームなど）の総数、テンプレートに準拠している数、未準拠（ドリフト済み）の数、およびドリフトを使用して作成された数が表示されます。



- 各列の上部にあるコントロールを使用して、結果を数値またはアルファベット順にソートできます。
- 。  テンプレート名、ドリフトポリシーとステータス、アクションタイプで結果をフィルタできます。
例：



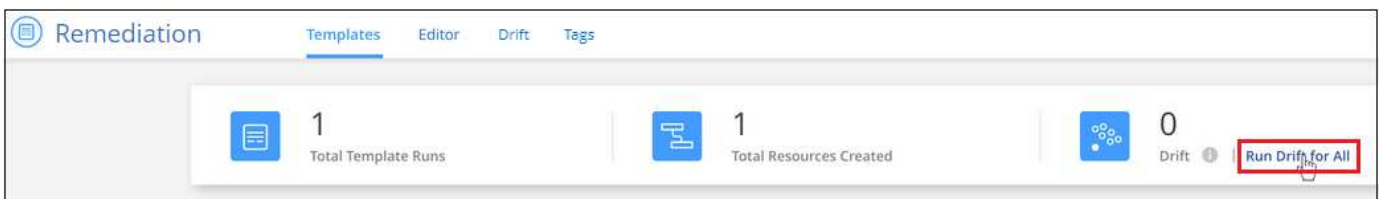
- 検索バーでは、特定のボリューム名またはテンプレート名を検索できます。
- 作業環境や Storage VM など、実際のリソース（またはボリューム）に関する詳細を確認するには、をクリックします .



ドリフトダッシュボードにデータを入力します

ドリフトダッシュボードの値を入力する前に、テンプレートでドリフトチェックを実行する必要があります。

テンプレートダッシュボードから、すべてのテンプレートのドリフトチェックを実行できます。



ドリフトチェックは、テンプレートダッシュボードから 1 つのテンプレートに対して実行できます。

Remediation

Templates Editor Drift Tags

1 Total Template Runs

1 Total Resources Created

0 Drift | Run Drift for All

5 Templates

Add new template

Template name	Resource type	Created by	Last Modified	Parameters	Resources created	
Cloud Volume ONTAP	Cloud Volume ONTAP Volume	Jhon Doe	Dec 16, 2020 02:13:59 pm UTC	10 View	0	Run Drift
Cloud Volume ONTAP	Cloud Volume ONTAP Volume	Jhon Doe	Dec 16, 2020 02:13:59 pm UTC	10 View	0	Run Template
Cloud Volume ONTAP	Cloud Volume ONTAP Volume	Jhon Doe	Dec 16, 2020 02:13:59 pm UTC	10 View	0	Edit Template
Cloud Volume ONTAP	Cloud Volume ONTAP Volume	Jhon Doe	Dec 16, 2020 02:13:59 pm UTC	10 View	0	Delete Template

非準拠リソースのドリフトレポートを作成します

1つのリソースのドリフトレポートを表示したり、レポートを実行してすべてのリソースのレポートをダウンロードしたりできます。このレポートを使用すると、システム管理者にアクションを割り当てて、リソースをテンプレートに準拠させる変更を加えることができます。

ドリフトダッシュボードでリソースのドリフトアイコンをクリックすると、非準拠の各リソースのパラメータのリストが表示されます。

7/150 Resources

Filter By +

Search Download

ID	Template Name	Action Type	Drift Policy & Status	Create Timestamp	Drift Timestamp
volume_test_234	AWS CVO volume for staging	Create Volume in Cloud Volumes...	ON Drifted	May 04 2021, 11:28:21 am	May 04 2021
volume_test_234	AWS CVO volume for staging	Create Volume in Cloud Volumes...	ON Drifted	May 04 2021, 11:28:21 am	May 04 2021
volume_test_345	AWS CVO volun				2021

Drift Details

Resource: volume_test_234

Resource Differences

Property	Change	Expected Value	Current Value
Disk Type	Not Equal	Premium_LRS	gp2
Tiering Policy	Not Equal	all	none

Close

テンプレートから作成されたリソースのドリフトレポートを表示するには、をクリックします。をクリックして.csv ファイルをダウンロードします。ドリフトレポートには、ページで現在フィルタリングされている内容が反映されます。ページにフィルタを適用しないかぎり、すべてのリソースが表示されるわけではありません。

BlueXPレプリケーションの健全性の詳細がドリフトレポートに表示されます

いつ ["テンプレートを使用したボリュームでのBlueXPレプリケーションの有効化"](#)では、[レプリケーションの正常性監視を有効にする] フィールドでドリフトを有効にすることにより、ドリフトレポートに詳細なレプリケーション情報を表示できます。ドリフトレポートを有効にすると、BlueXPレプリケーション関係の健全性が正常かどうか（ドリフト）、およびSnapMirrorの遅延時間、ステータス、前回の転送時間が表示されます。

このスクリーンショットは、ドリフトレポートで異常な SnapMirror 関係のレプリケーションの詳細を示しています。

Drift Details	
Throughput	575
Health	Not Equal
Monitor	
Property	Value
Lagtime	5 Days
Status	Idle
Last transfer end time	May 04 2021, 11:28:21 am

- ・注：レプリケーションが最初にボリュームに適用されているときに、正常性は「False」として返されます。これは正常な状態ではありません。数分後に、実際のレプリケーションステータスが表示されます。

テンプレートを使用してリソースを作成または変更する

組織が構築したアプリケーションテンプレートの中から 1 つ選択して、特定のワークロードとアプリケーションに最適化された作業環境またはボリュームを作成します。また、テンプレートを使用してアクティブ化することもできます ["BlueXPのバックアップとリカバリ"](#)、["BlueXPの分類"](#)および ["BlueXPレプリケーション"](#) をクリックします。

テンプレートを使用すると、Cloud Volumes ONTAP、Azure NetApp Files、およびオンプレミスの ONTAP システム用のボリュームを作成できます。

クイックスタート

これらの手順を実行すると、すぐに作業を開始できます。また、残りのセクションまでスクロールして詳細を確認することもできます。

1

必要な前提条件を確認する

- テンプレートを使用して Cloud Volumes ONTAP、オンプレミス ONTAP、または Azure NetApp Files システム用のボリュームを作成する前に、ボリュームを導入する適切な作業環境にアクセスできることを確認してください。
- テンプレートが、などのボリュームのクラウドサービスをアクティブにした場合 ["BlueXPのバックアップとリカバリ"](#) または ["BlueXPの分類"](#) をクリックして、ご使用の環境でサービスがアクティブでライセンスされていることを確認してください。

2

Application Templates サービスを起動します

[正常性]>[修正]を選択し、[*テンプレート]タブをクリックします。

3

テンプレートを実行し、パラメータを定義して、リソースを構築します

テンプレートを選択し、**Run Template** をクリックして、編集可能フィールドに値を入力し、リソースを作成します。

要件

以下の要件を読み、サポートされている構成になっていることを確認してください。

- コネクタがない場合は、["コネクターの作成方法を参照してください"](#) AWS、Azure、GCP 向け。
- Cloud Volumes ONTAP ボリュームを作成するときは、Cloud Volumes ONTAP の作業環境が利用可能であることを確認してください。
- オンプレミスの ONTAP ボリュームを作成する場合は、オンプレミスの ONTAP 作業環境が利用可能であることを確認します。
- Azure NetApp Files ボリュームを作成するときは、Azure NetApp Files の作業環境が利用可能であることを確認してください。
- テンプレートが、などのボリュームのクラウドサービスをアクティブにした場合 ["BlueXPのバックアップとリカバリ"](#)、["BlueXPの分類"](#) または ["BlueXPレプリケーション"](#) をクリックして、ご使用の環境でサービスがアクティブでライセンスされていることを確認してください。

ボリュームテンプレートを選択して実行します

テンプレートを選択して実行し、新しいボリュームを作成する方法は複数あります。

- 作業環境からボリュームテンプレートを実行します
- Templates ダッシュボードからボリュームテンプレートを実行します

どの方法を選択する場合でも、定義する必要があるボリュームの必須パラメータに関する詳細を以下のセクションで確認できます。

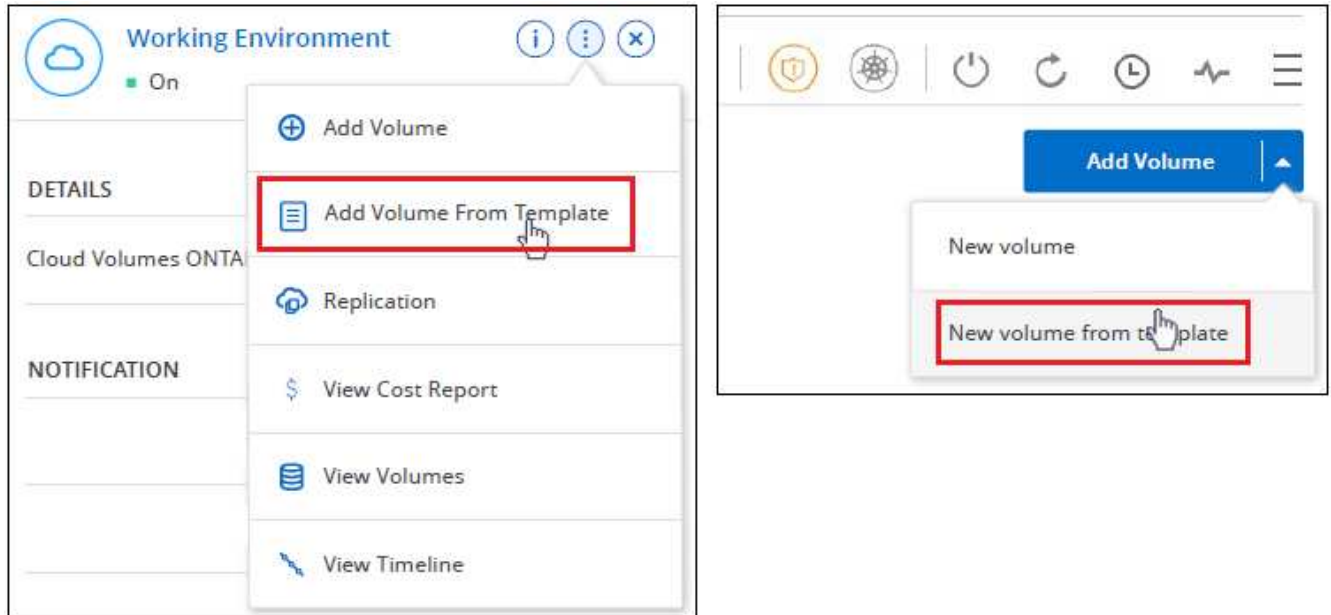
- ["Cloud Volumes ONTAP ボリュームをプロビジョニングする方法"](#)
- ["Azure NetApp Files ボリュームをプロビジョニングする方法"](#)
- ["オンプレミスの ONTAP ボリュームをプロビジョニングする方法"](#)

作業環境からボリュームテンプレートを実行します

既存の作業環境にボリュームを追加するには '_Working Environment_page および _Volume Details_page を使用します

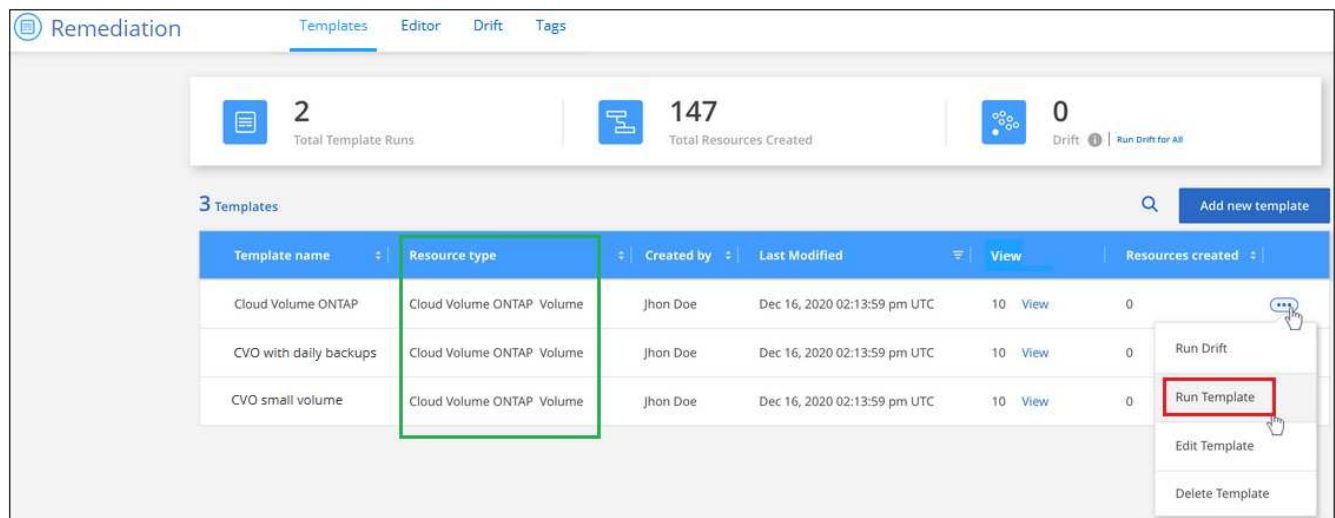
手順

1. 作業環境ページまたは _ボリューム詳細_ ページで、*テンプレートからボリュームを追加* をクリックします。



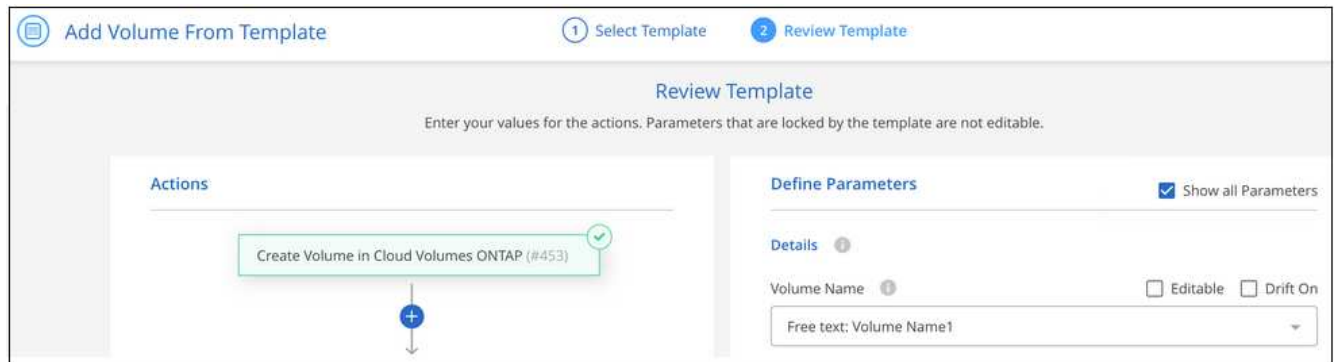
Templates Dashboard が表示され、選択した作業環境に適用できるテンプレートのみがリストされます。たとえば、Cloud Volumes ONTAP テンプレートのみが表示されます。

2. をクリックします ... アイコン"] および *テンプレートの実行*。



Add_Volume from Template_page が表示されます。

3. 編集可能なフィールドに値を入力してボリュームを作成し、*テンプレートの実行* をクリックします。



Templates Dashboard からボリュームテンプレートを実行します

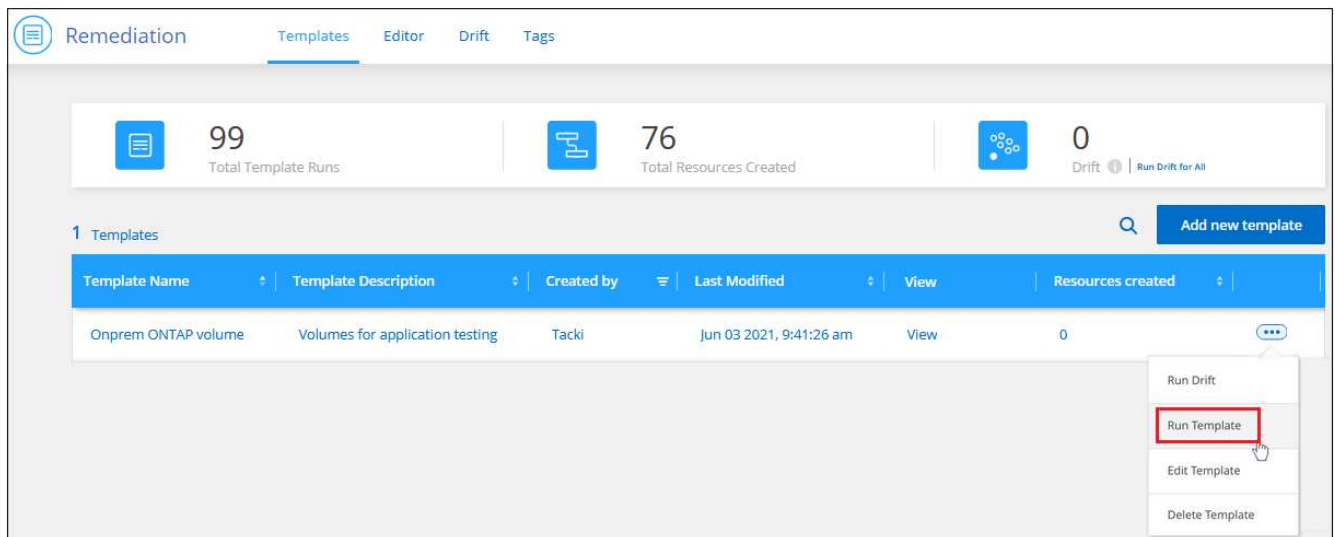
既存の作業環境にボリュームを追加するには、*Templates Dashboard* を使用します。

手順

1. [正常性]>[修正]を選択し、[*テンプレート]タブをクリックします。

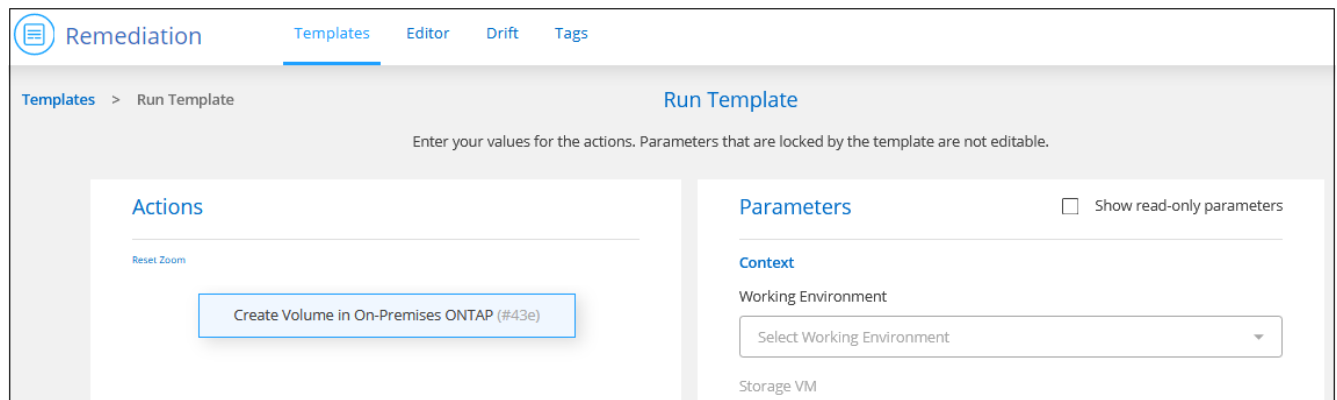
Templates Dashboard が表示されます。

2. 使用するテンプレートで、をクリックします ... アイコン"] および * テンプレートの実行 *。



Run Template_page が表示されます。

3. 編集可能なフィールドに値を入力してボリュームを作成し、* テンプレートの実行 * をクリックします。



ダッシュボードからテンプレートを実行するときは、作業環境やその他の変数（Storage VM やアグリゲートなど）を選択する必要があります。作業環境からテンプレートを実行すると、作業環境が自動的に入力されます。

作業環境テンプレートを選択して実行します

この機能用のテンプレートを作成している場合は、_テンプレートダッシュボード_ から新しい作業環境を作成できます。

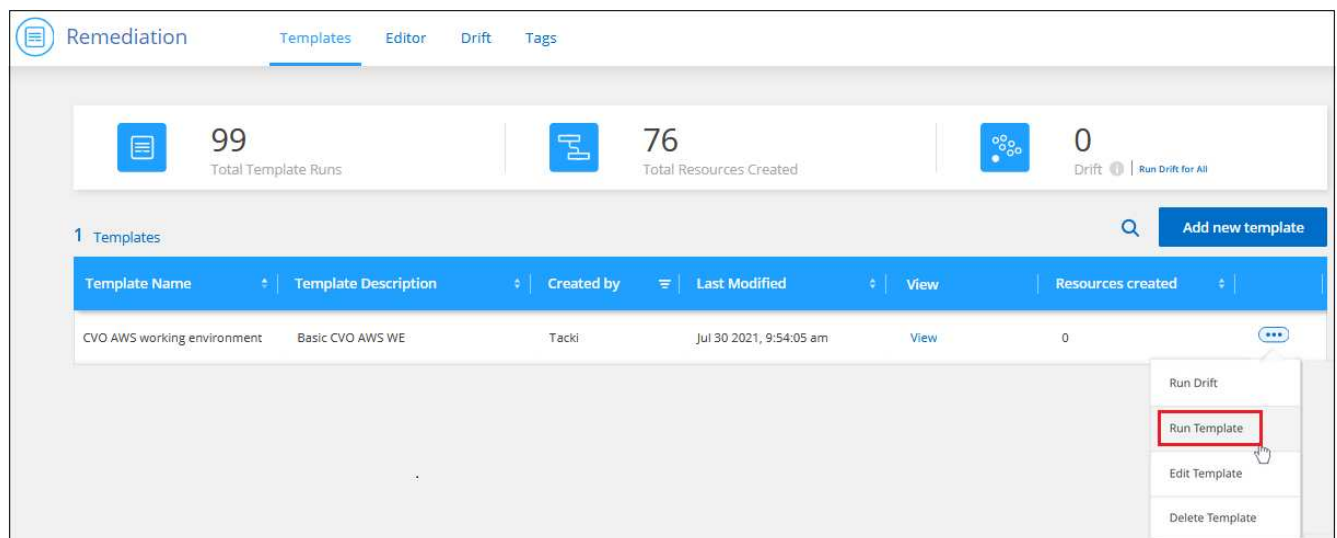
作業環境の作成に必要な詳細については、を参照してください ["AWS での Cloud Volumes ONTAP の起動"](#)。

手順

1. [正常性]>[修正]を選択し、[*テンプレート]タブをクリックします。

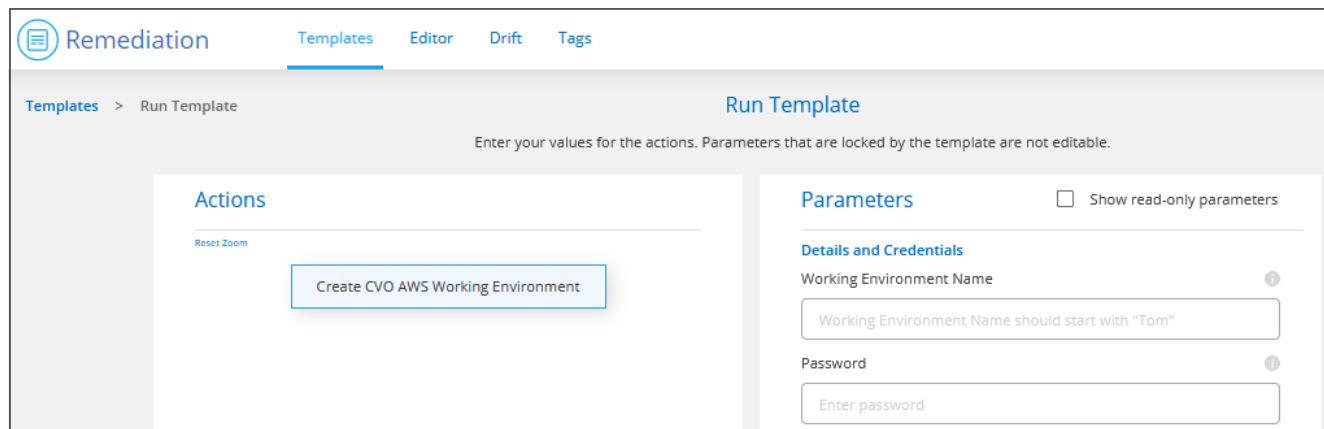
Templates Dashboard が表示されます。

2. 使用するテンプレートで、をクリックします **...** アイコン"] および * テンプレートの実行 *。



Run Template_page が表示されます。

3. 編集可能なフィールドに値を入力して作業環境と最初のボリュームを作成し、* テンプレートの実行 * をクリックします。



既存のリソースを検出するテンプレートを選択して実行します

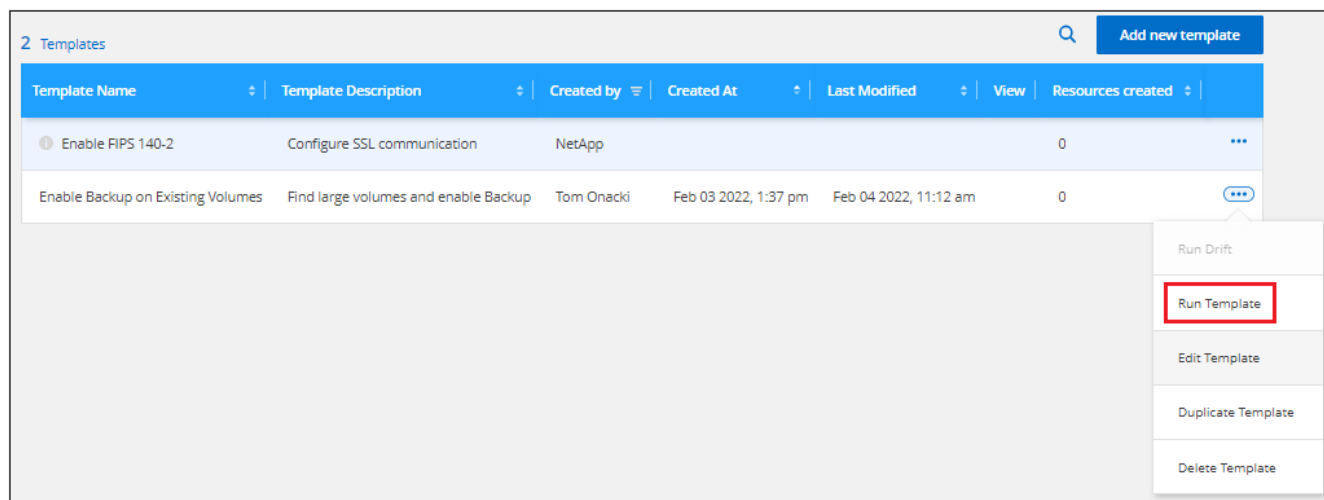
特定のリソース（ボリュームなど）を検出するテンプレートを実行し、そのリソースでクラウドサービス（BlueXPのバックアップとリカバリなど）を有効にすることができます（この機能を使用してテンプレートを作成済みの場合）。テンプレートの実行中に若干の調整を加えて、クラウドサービスを適切なリソースにのみ適用することができます。

手順

1. [正常性]>[修正]を選択し、[*テンプレート]タブをクリックします。

Templates Dashboard が表示されます。

2. 使用するテンプレートで、をクリックします **...** アイコン"] および * テンプレートの実行 *。



Run Template page が表示され、テンプレートで定義された検索がすぐに実行されて、条件に一致するボリュームが検索されます。

3. 返されたボリュームのリストを Volume Results_area に表示します。

Run Template

Enter your values for the actions. Parameters that are locked by the template are not editable.

Actions

- + Reset Zoom

Find Existing Resources (#1ef)

Enable Cloud Backup On Volume (#fe4)

Parameters ☐ Show read-only parameters

Search Criteria ✎

Resource Type: Volumes in Cloud Volumes ONTAP

Working Environment: CloudVolumesONTAPHA

Storage VM: svm_CloudVolumesONTAPHA

Volume Size (GB): 100 - 500

17 Volumes Found

<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> VolumeName_long_string_188bbfh7 125 GB May 11, 2021 key_a: value_a +3 </div>	<input checked="" type="checkbox"/>
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> VolumeName_long_string_abc 257 GB May 17, 2021 key_bbb: value_b1b1 +11 </div>	<input checked="" type="checkbox"/>
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> Volume_string_ffjk78s 304 GB May 21, 2021 key_c: value_c1 +23 </div>	<input checked="" type="checkbox"/>

4. 想定通りの結果が得られたら、テンプレートの Enable Cloud Backup on Volume_partにある条件に従って、BlueXPのバックアップとリカバリを有効にする各ボリュームのチェックボックスを選択し、*[テンプレートの実行]*をクリックします。

結果が想定どおりでない場合は、 をクリックし、さらに検索条件を絞り込んでください。

結果

テンプレートが実行され、検索条件で選択した各ボリュームでBlueXPのバックアップとリカバリが有効になります。

すべてのエラーは、_Running Your Template_page で呼び出され、必要に応じて問題を解決できます。

著作権に関する情報

Copyright © 2024 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。